

資料館 だより



目次▶ ①…企画展 ②…事業報告、壁面の凹凸 ③…事業予定、赤米実る ④…学芸員の冬、開館カレンダー

新年あけましておめでとうございます

市民の皆様にとりまして、輝かしい一年でありますことをご祈念申し上げます。
本年も皆様に親しまれ、愛される郷土資料館を目指して参りますので、是非、ご来館ください。

郷土資料館 職員一同

新型コロナウイルス感染拡大防止対策について



- 感染の状況によって掲載のイベントが中止になることがあります。
- 発熱や咳など風邪のような症状がある方のご来館・ご参加はご遠慮ください。
- ご入館・ご参加時には三密を避け、マスクの着用をお願いします。
- 感染防止のため、手指の消毒の徹底をお願いします。
- 館内での密集を防ぐため、一時的に入場制限をさせていただく場合があります。

企画展

令和4年 新収蔵資料展

開催期間：1月4日～1月26日

例年実施しております新収蔵資料展です。昨年1年間に寄贈を受けた資料32件 282点(11/30現在)の中から、約50点を選択してご紹介します。



ふいご
鞆

ピックアップ

写真は、昨年6月をもって125年の歴史に幕をおろした明珍鉄工所よりご寄贈いただきました鞆(ふいご)です。鉄を加工する際、火床(ほど・ひ

どこ)と呼ばれる部分でおこした火の火力を上げ、保つため、手前のハンドルを押し引きすることによって風を送り続ける道具です。

事業報告

10月 ●8日・22日…「古里チョイ散歩」見学会 ●8日～21日…恵庭の歴史写真展①
●15日・16日…アイヌ文化マスター事業⑤ ●23日…カリンバ講演会

11月 ●3日～20日…消防展 ●13日…アイヌ文化マスター事業⑥ ●19日…カリンバ土曜講座④
●26日～12月18日…恵庭の歴史写真展②

12月 ●11日…アイヌ文化マスター事業⑦

郷土資料館ボランティア事業 「古里チョイ散歩」見学会

10月8日・22日

市道恵庭線(通称 旧旧道)を中心に歴史的ゆかりのある場所を、郷土資料館ボランティアが案内ガイドを務めながら歩いて巡る見学会を実施しました。明治14年に明治天皇が立ち寄られた漁村帷宮碑や昭和30年まで走っていた森林鉄道跡などをおよそ1時間で訪ね歩きました。香港から来られ、親子3人で参加されたみなさんは、熱心にボランティアガイドの説明に耳を傾けていました。

▶見学会の様子



残る90年前の調査の記録』、最後に札幌国際大学縄文世界遺産研究室長の越田賢一郎さんが『恵庭のアイヌ文化期の鉄鍋について』と題する講演を行いました。いずれの講演も、縄文時代からアイヌ文化期まで恵庭が道内の中心的な場所であったことを示唆する内容であり、参加者の皆さんは熱心に聞き入っておられました。



▲講演会の様子

企画展「恵庭消防創立100周年 1年前記念展」

11月3日～11月20日

大正12(1923)年恵庭村消防組が公設されてから令和5年で100年を迎えることから、郷土資料館と消防本部の共催事業として企画展が開催され、歴代の防火服や放水ポンプ、各種放水器具、消防の歴史を振り返る写真パネル等が展示されました。

約300人が来場した3日には、スタートイベントとして消防車両の展示、放水体験が行われました。また、1日消防署長として恵庭非公式ヒーロー「アルケイドさん」、北海道消防協会「消太くん」が訪れ、写真撮影を行いました。

期間中、正解すると消防車両缶バッジが当たるクイズが行われ、多くの子供たちでにぎわいました。



▲スタートイベントの様子

壁面コンクリートの凹凸

郷土資料館建築工事に携わった(有)山本 山本隆幸さんのお話より



資料館内の梁の半円形の部分(上写真)、玄関の周囲、外壁では中庭に面するガラスの上、正面玄関に至るスロープ上の梁を支える柱等、その他壁面の小さなスペースにもコンクリートに凹凸をつけている部分が複数箇所あります。

これは、軟石の建造物にみられる「小叩(こたた)き仕上げ」を模したものです。明治大正期より島松沢では島松軟石の切り出し・加工が行われ、昭和30年代まで恵庭を特徴づける主たる産業の一つであった歴史を郷土資料館の建物に刻み込もうと約30年前の建設当時、考案されたそうです。

郷土資料館の建物には、建築に関わった皆さんの思いが込められていることがよくわかりました。

アイヌ文化マスター事業

10月15・16日



恵庭市は昨年度に引き続き国のアイヌ政策推進交付金を利用して、公募した中学生6名がアイヌ文化を学ぶ「アイヌ文化マスター育成事業」を実施しています。今回は10月15・16日に実施した研修をご紹介します。15日は新ひだか町博物館斉藤館長プロデュースの「アイヌ語地名の旅：松浦武四郎の足跡を追う」と

題したフィールドワークに参加しました。斉藤館長の熱心な解説のもとアイヌ語地名の由来を、地形を実感しながら学んだことは中学生にとってひじょうに貴重な体験となりました。16日は平取町で木彫りコースター製作体験などを行いました。令和5年2月までに白老町にある国立アイヌ民族博物館での研修な

ど、あと3回の講座を体験する予定です。



▲新ひだか町での一コマ

事業予定



1月 ●4日～26日…令和4年新収蔵資料展 ●15日…アイヌ文化マスター事業⑧

2月 ●3日～3月12日…ひな人形展 ●12日…アイヌ文化マスター事業⑨

ひな人形展

3月3日 桃の節句を前にひな人形を展示します。これまで寄贈を受けた6組(大正、昭和初期、昭和20年代、昭和30年代、昭和50年代、平成)に加え、今年度新たに1組が加わり全7組

をご紹介します。

この新資料は、明治時代末期に山形県で購入された7段飾りです。特別展示室いっぱいに並んだひな人形の移り変わりも合わせてお楽しみください。



◀明治末期のひな人形

赤米(あかまい)実る

栽培者：平尾恒夫さん



古代米として知られる赤米です。稲はもともと暖かい地方の作物のため北海道では、品種改良されていない赤米の栽培は難しいそうです。

郷土資料館では、20年程前より静岡市立登呂博物館や道内で栽培に成功している方から種もみを分

けていただき栽培に取り組みましたが、すべて失敗に終わりました。

しかし、このたび、室内でビニールの覆いを作るなど温度を保てるよう工夫した結果、穂が出て、米を実らせることができました。

芒(のぎ)と呼ばれる毛のようなものが赤く映えるのが特徴です。

学芸員の冬「整理作業」

皆さんは発掘調査のない冬の間、埋蔵文化財担当学芸員が何をしていると思いますか？今回ご紹介する内容は、今年の冬に行っている業務「整理作業」の一部です。整理作業は、発掘調査を終えたあと、報告書を刊行するために必要となる作業です。



写真①

写真①は、発掘調査で出てきた出土品を分類しているところです。この工程

で、土器の作られた時期や石器の種類ごとに分けていきます。土器の分類は、出てきた層や文様、状態など様々な情報から時代を判断するため非常に難しい工程です。写真②は、接合という作業を行っているところです。この接合は、破片同士をくっつける作業です。何万点という数の破片から同じ個体の物を見つけ出し接着します。また、すべての破片がそろっているわけではないため、その作業は非常に困難です。この作業を終えてもまだ

続くのですが、それはまたいつかご紹介いたします。



写真②

皆さんも一度は資料館で見たことがあるであろう土器や石器ですが、実は様々な困難を乗り越え完成した、努力の結晶でもあるのです。学芸員や作業員が汗と涙を流して完成した土器や石器を、恵庭市郷土資料館でご覧いただけると幸いです。



郷土資料館 開館カレンダー



1月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

3月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

- 毎週月曜日が**休**館日です。
…▶ただし、月曜日が休日の場合、**開館日**です。その場合、振替となり火曜日、水曜日が**休**館日となります。
- 休日は**開館日**とし、翌日が**休**館日になります。
…▶ただし、土曜日、日曜日にあたる場合は、**開館日**です。
- 毎月最終金曜日は、資料整理のため**休**館日となります。
…▶ただし、最終金曜日が休日にあたる場合は、前日が**休**館日になります。
- 年末、年始の**休**館日は、12月28日～1月3日です。

休館日の詳細



編集後記

前号から号の名前を季節名に変更しました。本号は「冬号」とするところですが、表紙の外観写真がどう見ても夏であり、冬号に似つかわしくなく、かといって良い冬の写真もないため、「新年号」となりました。(よ)

資料館だより No.60 2023年1月4日発行

発行 恵庭市郷土資料館 住所 〒061-1375 恵庭市南島松157-2 TEL/FAX 0123-37-1288

開館時間 午前9時30分～午後5時 入館料 無料